2020 年度
金沢大学教職大学院
オンラインフォーラム　報 告 書

＜テーマ＞

新しい時代の教育実践の探究

（頁）

◆ はじめに …… 1

◆ 全体会 …… 5

「教職大学院の取組」

◆ 実践発表 …… 9

「院生（修士２年）の修了研究グループ討議」

金沢大学大学院教職実践研究科

はじめに

研究科長　大谷 実

教職大学院は教員養成を行う国立大学の全てに設置され定員をさらに拡大している傾向にあり、教育委員会との連携のもとで高度な専門職業人としての中核教員を育成するために、地域の特性や教育課題に照らして、特色あるコースやプログラムを開設し、質・量ともに発展期を迎えております。金沢大学教職実践研究科では、「理論と実践の往還」というミッションを「教職実践知の交流拠点の形成」を通して実現しようとしています。本研究科は、学校マネジメントと学習デザインの両コース、現職院生と学卒院生、すべての学校種の実践知が交流して反省的な実践共同体を形成することで、石川県の教育の発展に寄与する高度な専門職業人を輩出することを目指しております。2016年設立当初から、優れた中核教員をご推薦くださる石川県教育委員会からの絶大なるご支援、県内の市町教育委員会、現職教員院生の在籍学校や連携協力校など、様々な学外のステークホルダーからの惜しみないご協力を賜り充実した研究科運営ができており、関係の皆様に心から感謝を申し上げます。

本研究科は、教職大学院運営協議会などにおいて石川県教育委員会と協議をしつつ、石川県の教職員育成指標に基づく幅広い職能ステージに応じた高度専門職の育成、例えば「若手教員育成プログラム」を推進する中堅的なリーダーの育成に資する研究にも積極的に取り組んでおります。さらに、校長会や地域の企業体の識者からなる教育課程連携協議会におけるご意見を踏まえつつ、新しい時代を見据えた高度な教育実践力の育成、例えば課題の発見と解決に向けて主体的･協働的に取組むアクティブラーニングの推進、開かれた教育課程をめざした社会の担い手としてのヴィジョン探究、GIGAスクール構想の実現のモデルとなるICT機器を活用した先進的な学習手法の開発にも取り組んでおります。

本研究科では２年間の学修の成果を「金沢大学教職大学院フォーラム」として年度末に開催し、全国・地域・県内の関係者の皆さまに公開してまいりました。しかし、昨年度は新型コロナコロナウイルスの感染拡大により、残念ながら予定したフォーラムを急遽中止せざるを得ませんでした。今年度は、コロナ禍のもとでの遠隔授業の経験をいかし、新しい時代の教育の在り方も模索しつつ、「新しい時代の教職実践の探究」を主題として、さる２月27日にオンラインで開催しましたところ、馳浩・元文部科学大臣をはじめ、修了生が１年次にお世話になった附属幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校の先生方や、２年次にお世話になった各連携協力校の先生方、石川県教育員会、県内外の教育機関等から100名を超える方々にご参加いただ

くことができました。コロナ禍においてこれほど盛大なフォーラムとなったことは教職大学院教員一同そして院生一同にとって嬉しい限りでした。

今回のフォーラムでは、山崎光悦金沢大学学長の開会挨拶に続き、研究科長から本フォーラムの趣旨について説明がありました。また、学習デザインコース松田淑子教員から本研究科の特色ある教育活動の一端が紹介されました。今回のフォーラムでは、2年次院生15名全員の各自の修了研究について5つのグループに分かれてオンライン形式で発表を行い、全国からの参加者、修了生が学校実習等でご指導をいただいた各連携協力校の先生方、そして附属学校園の先生方のご参加のもと、活発な質疑応答がなされ、講評として石川県教育委員会指導主事及び県で指導的役割を担っておられる管理職の方々よりご指導・ご助言者をいただきました。

本報告書はフォーラムの全日程について当日の記録を留めるとともに、本研究科が希求する教職実践知の交流拠点というテーマついて広くご意見を寄せていただくことや、教職大学院が全体として直面している課題や今後の展望を考えるための礎石となるようにという願いを込めて刊行したものです。是非お目通しいただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚に存じます。

最後になりますが、今回のフォーラム開催にあたり後援をいただいた石川県教育委員会ならびに石川県市町教育委員会連合会、そして山崎光悦・金沢大学長には格段のご支援とご協力を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

金沢大学
KANAZAWA UNIVERSITY

2020年度　金沢大学教職大学院オンラインフォーラム

新しい時代の教育実践の探究

日時　令和３年２月27日（土）
13:00～16:10　〔受付〕12:30～

方法　オンラインリモート
（Zoomによる）

参加費無料
事前申込み必要

プログラム

12:30～13:00	**受　付**（ミーティングルームへの入室）
13:00～13:25	**全体会**（教職大学院の取組）
13:35～16:10 （ミーティングルームごとの終了）	**実践発表**（２年次院生15名） ５つのミーティングルームに分かれて発表 ・ラウンド１（５名）　13:35～14:20 ・ラウンド２（５名）　14:30～15:15 ・ラウンド３（５名）　15:25～16:10

	ルームA	ルームB	ルームC	ルームD	ルームE
ラウンド１／13:35～14:20	発表者１	発表者２	発表者３	発表者４	発表者５
ラウンド２／14:30～15:15	発表者６	発表者７	発表者８	発表者９	発表者10
ラウンド３／15:25～16:10	発表者11	発表者12	発表者13	発表者14	発表者15

※発表者については裏面をご覧ください。発表者がどの番号になるかは、後日お知らせいたします。

お申込み方法

参加を希望される方は、Webサイトの専用フォームからお申込みください。
https://pdte.ed.kanazawa-u.ac.jp/forumregisterr3
【申込み締切】令和３年２月15日（月）

写真提供：石川県観光連盟

【主催】金沢大学大学院教職実践研究科（教職大学院）
【後援】石川県教育委員会　石川県市町教育委員会連合会
【お問い合わせ】金沢大学人間社会系事務部総務課　TEL：076-264-5448
E-mail：n-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp　https://pdte.ed.kanazawa-u.ac.jp/

2020年度　金沢大学教職大学院オンラインフォーラム　新しい時代の教育実践の探究

実践発表は、５名ずつ３回に分けて行います。
参加する際は、発表者の所属するミーティングルームにアクセスして、ご参加ください。
参加の申込みをいただいた方には、後日各ミーティングルームと資料閲覧のURLを、メールにてお送りいたします。

実　践　発　表　内　容

	発　　表　　者	研　究　テ　ー　マ〈修正される場合があります〉
学習デザイン	小澤　大地 (学部卒)	高等学校数学科における協働学習を用いた授業デザイン ～生徒の数学に対する態度と学びの生産性を視点として～
	川端　　葵 (学部卒)	生徒の思考が深まる高校古典の授業の在り方 ～多角的な視点を関連づけて作品内容を捉え直し、作品の本質と向き合う生徒を目指して～
	中村　光佑 (学部卒)	事象を数理的に捉えることのできる生徒の育成を目指して ～中学校数学科における「方法知」の視点を取り入れた授業実践～
	西川　果那 (学部卒)	音楽科における豊かな感性の育成を目指した鑑賞指導
	本郷　行秀 (学部卒)	持続可能な社会の担い手の育成を目指して生徒の内発的な課題意識を醸成する中学校の授業 ～生徒に委ねる中で「なんで？」が表出するために～
	北　　翔平 (石川県立小松特別支援学校)	作業学習における学ぶ意欲を高める授業の展開 ～「やりたい」と「できそう」を紡ぐ授業づくり～
	藏谷　京子 (金沢市立木曳野小学校)	子どもが自分から動き出す授業づくり　～国語科の授業を例として～
	能山　公介 (中能登町立中能登中学校)	集団への適応につまずきを抱える生徒の学びを深める社会科授業 ～自己評価活動への働きかけを通して～
	林　　由佳 (津幡町立刈安小学校)	思考が広がり深まる授業をめざして　～遠隔合同授業を効果的に活用して～
	松田　　剛 (白山市立美川中学校)	有用性を実感させる理科の授業設計
学校マネジメント	小山　二郎 (石川県立盲学校)	対話に基づく「心理的安全性」の構築を目指した学校運営
	納谷　健治 (小松市立第一小学校)	居心地のよい職員室づくり　～居心地プロジェクトの実践を通して～
	日光　博史 (津幡町立井上小学校)	対話を通した校内研修の構築
	廣田　　学 (石川県立大聖寺高等学校)	若手教員のやりがいを産み出す働きかけ ～ミドルリーダーと若手教員の関わり合い～
	林　理恵子 (みはる幼稚園)	園内研修の土壌づくり　～管理職としての取り組み～

全　体　会

「教職大学院の取組」

【発表者】

松田　淑子　（金沢大学大学院教職実践研究科副研究科長）

教職大学院の取組

司会：本教職大学院の取り組みについて副研究科長の松田がご紹介します。

松田：教職大学院の松田でございます。私のほうからは教職大学院の取り組み、この１年間を振り返りながらお話させていただこうと思います。どうぞよろしくお願い致します。

本教職大学院の概要につきまして初めにお話しします。我々の教職大学院は学習デザインコース、そして学校マネジメントコース、二つのコースがございます。学習デザインコースのほうには学卒院生が５名、５年以上の現職経験を持つ教員が５名、そして学校マネジメントコースには 10 年以上の教職経験を持つ現職教員が５名、合計１学年 15 名の定員で組織されています。

カリキュラムはこのようになっています。２年間のうち１年目には大学院での学びを中心に、二つのコースの共通科目、そしてそれぞれのコースの授業、それから学校実習Ⅰでは附属学校園で実習をさせていただいております。２年目は現場に軸を変え、現職院生は自分の所属校で、そして学卒院生は連携協力校で学校実習Ⅱを中心に学ばせていただいております。

２年間貫く柱として院生の学びと研究を支える個別の専門研究、そして教職実践研究科教員も院生も、２学年共に学びを広げる実践カンファレンスを月に１回という形でカリキュラムを構成しています。

昨年度までの授業風景はこのように院生の探求を支える皆での対話、そして協同、これらを大切に授業を展開してきました。学外に及んでも現地で学ぶ地域教育実践や、地域教育研究、そして学校実習、それらを院生同士でしっかりと話し合って省察する。このような学びを大事にしてきました。

授業外においても国内外における研修会への参加や、学校訪問等を行い、学び合うコミュニティーの拡張に努めてまいりました。

しかし 2020 年度は世界中がそうであったように、我々の教職大学院の様相も一変しました。予定されていた今年度の１年生の時間割はこのような形をしていました。しかし、金沢大学の前期の授業は全てオンラインに決定しました。

そこで研究科内で検討を重ねた結果、2020 年度限定の時間割を作成しようということになりました。大学全体としてはオンデマンド型の授業が中心ではございましたが、小回りのきく教職実践研究科ならではと、Webex や Zoom による授業も併用出来ないかということで、オンライン型の授業とオンデマンド型の授業の併用を試みました。

同時に特にまだ対面も出来ていない、コミュニケーションも取れていない１年生に対しては、授業だけでなくホームルーム的な時間を設置出来ないかということで、週に１時間ホームルーム的な時間も設けることとしました。前期の時間割はこのようにオンラインのものとオンデマンドのもの、そして個別展開の授業という３層構造で展開することになりました。

実際には金沢大学の LMS を使用しながら教材をアップし、院生たちはレポートをアップし、時には掲示板で対話もし、さらに Zoom などでは授業を受けるだけではなくブレイクアウトセッションを使いながらグループ対話を深め、さらには共通のボードがあったらいいねということで、ジャムボード等を使用しながら対話を深めてきました。

もちろん対面に越したことはないかもしれませんが、院生達との対話は Zoom 上でもかなり進み、理論的なバックアップは LMS の中で構築されたように思います。

また個別ゼミも Zoom で行ったのですが、学校実習に行っている２年生においては授業で使用するプリントや、授業で行った板書をアップすることにより個別の対話を深めてきました。

本日のメインである分科会では、このコロナ禍において悪戦苦闘しながら頑張り抜いてきた２年生達の実践研究の成果をそれぞれの院生の口から聞いていただきたく、そしてご参加の皆様方にご意見やご助言をいただきたくどうぞよろしくお願い致します。

さて、８月にはこれまで毎年フォローアップの日というのを設けて、修了生達と交流し、修了生達の実践発表をいただいておりました。今年はZoomで展開し、それぞれ１期生、２期生、３期生からの貴重な実践報告をもらいました。対面である良さもありますが、対面でないために参加人数が増えたという利点もありました。

そのような中、後期の授業は金沢大学は対面再開となりました。密は避けつつ、このように教室を広く使いまして間を取りながら授業を重ねてまいりました。そして改めて学び合う喜びを実感したものと思っております。

後期の授業を対面で展開してきましたが、ある大雪の日の授業のことです。このスライドは一見普通の対面授業にも見えますが、実は遠方から通っている院生はZoomでの参加､近くにいる院生は対面というハイブリット型の授業も展開して来ました。これからの時代このようなことが学校現場でも起こってくるのではないかと思います。

２月の初めには１年生の報告会、そして２年生の実践研究修了報告会もZoomで行われました｡たくさんの修了生が忙しい中をかいくぐって参加してくれたのもありがたいことでした。

このように本当に走りながら、考えながら、失敗しながら繰り返した１年間でした。しかしコロナに振り回されるだけではなく、我々は新しいチャレンジも院生と教員共にしてきたつもりです。

その１例として､GS科目をご紹介させてください。GS科目とは、金沢大学グローバルスタンダードに基づいて考案される、全学的に展開している授業科目です。今年度よりわれわれも新たな授業を展開することになりました。

本研究科で開講した「社会の担い手としてのビジョン探求」、この授業は教職実践研究科の院生のみならず、他研究科からもたくさんの受講生に受講していただきました。教員はどうしても学校から外になかなか出ないという面がありますが、多様な研究科に所属する院生同士の学び合いを通して、社会に開かれた学びができました。

これからの、社会に開かれた教育課程を遂行していくにあたっても、学外との協同が欠かせません。学外との協同、多様な研究科との協同、それらを大事にしながら院生自らが自身の未来創造のビジョンを探求するということを目的に、この授業を開設しました。

クォーター制なので全８回ではありますが、前半の２回目、３回目、４回目それぞれゲストスピーカーをお招きしました。国連大学サステイナビリティ高等研究所の永井三岐子氏にはSDGsについて。そしてビーイングホールディングスCEOの喜多甚一氏からは､企業経営と社会創造について。そして北陸大学の關屋暁子氏より多様な人材による連携について、それぞれ貴重なお話と質疑応答をいただきました。

授業の後半ではお三方のお話を踏まえ、それぞれの院生がどのような未来創造のビジョンを描いてきたか､そのことを小グループの中で話し合い、自分達の探求を深めてきました。

最後８回目では、その小グループを解いて、クロスセッションにより自分たちのグループではどのような話が展開されてきたかを紹介し合うと共に、これから何を考えてどのように行動していけばいいのかということを深め合ってきました。

このGS科目「社会の担い手としてのビジョン探究」、簡単に申し上げますと社会と繋がって生きること、そしてよりよい未来社会の形成者の自覚を持って、考え、行動して生きていくために、そのスタートラインに付こうという主旨でした。

果たしてこの主旨は院生たちにとってどのような学びを引き起こしたか。院生達の最後の省察シートから一部抜粋して述べさせていただきます。「社会の担い手としてのビジョン探求から、学び続けること、一歩前に足を踏み出すこと、その大切さをこれからも続けていきたいです。思いは行動にし続けること、見つめ直すことで実現していくことも学びました」「やりたいという気持ちが大事。授業では子供達にやりたい気持ちを持って欲しい。そのためにはまず教師は自分の授業にしっかり惚れ込むことが大事ではないか。そんなことを考えた」「社会で必要とされる力と、学校で

育てたい力はかみ合っているのか。これを自分自身に問い続けながら、常に世の中の流れとその少し先を見ていかなくてはならない」。このような省察がありました。院生達の学びはこれからも続いていきます。

駆け足でしたがこの１年の教職大学院の取り組みをご紹介させていただきました。コロナ禍中の2020年度、失敗を恐れず、学びを止めず、未来を作るんだという意気込みで、そして学び合える喜びと価値を大切にしてきた１年だったと思います。

これからも教職大学院は頑張っていきますのでどうぞご支援、ご指導のほどお願い致します。ご清聴ありがとうございました。

司会：続きまして、最後に本研究科長の大谷がご挨拶申し上げます。

大谷：教職実践研究科長の大谷実でございます。本日は年度末の、また週末にも関わらず本教職大学院のフォーラムにご参加くださり誠にありがとうございます。

初めてのオンラインによる開催とさせていただきましたところ、全国からこれまで最多の100名を超える皆様方に参加を賜り大変有難く存じます。

松田副研究科長からご説明がございましたように、本年はコロナ禍でございましたが、この機会に本教職大学院が金沢大学のご支援の下で挑戦している三つの特色について簡単にご紹介させていただきます。

１点目は、社会に開かれた教育課程の理念を推進するということと共に、地域と共にある学校、あるいは学校を核とした地域の活性化に取り組んで行きたい、と思っているところであります。

特に石川県や市町村の教育委員会と密に連携をさせていただきながら、地域の特性や教育課題に対応しつつ､科目編成やコース編成をしています。地域教育実践、地域教育研究という科目も特色ある科目ではないかと考えています。

先ほどの副研究科長のお話にもありましたように、本研究科では行政機関や企業体等の団体とも協同させていただいて､SDGs等を視点とした学校を核とした次世代の地域づくりを目指しつつ、新しい時代の学校、地域創生の活動を推進する教育実践知の交流拠点としてのハブ的な機能を充実したいと望んでいるところです。

２点目は、院生自らが探求的に、自主的に、また協同的に課題に取り組んでいるということが私達の誇りとするところであります。探求型のプロジェクトを中心としながら、両コースに所属する多様な学校種の専門性を持っている院生達が、ポリフォニー、多声的な一つの実践コミュニティーを形成することを重視しているところです。

例えば１年生の附属学校園での実習ではマネジメントコースの院生が、デザインコースの授業研究を組織することもたくさんございます。また２年目の連携協力校での実習では、現職院生と学卒院生がペアになって１年間勤務校で実践研究に取り組んでおります。

このように本研究科では、協同的な活動による職能成長を図っていきたいというふうに考えています。本日のフォーラムも１年生が協力して全体の運営を行っているところです。

３点目は、総合大学としての良さを生かして学士課程の学校教育学類のみならず､ロースクール、いわゆる法学研究科や人間社会環境研究科等からのご協力を得ながら、幅広い専門的な知見を提供しているということ。

また本学は全校種の附属学校園がありまして、また附属学校校園長に教職大学院専任の先生になっていただき連携を図ることで、金沢大学附属学校園の先導的で先進的な理論と実践の往還の在り方を学んだり、子どもの多様な成長過程を俯瞰的に捉えたり、学校固有の教育課題や教育実践の特色を把握出来るという特色があります。

こういったことを大切にしながら５年間活動してきました｡本日は修了予定の15名の院生が２年間、そして特にコロナ禍の中で実践研究を行ってきた一端を発表させていただきます。

限られた時間ではございますが、皆様からの忌憚のないご指導、ご助言を賜りますよう重ねてお願い申し上げ、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。